



Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2025年

3

月

Vol.137

NEWS



CONTENTS

表紙

副病院長 鬼形 和道
乳腺・内分泌外科 診療教授 板倉 正幸
先端がん治療センター 准教授 兒玉 達夫

中表紙

- ・ 教授就任のご挨拶
- ・ 退職のご挨拶

裏表紙

- ・ 教授就任のご挨拶
- ・ 研修会・講演会・セミナー開催情報



島大病院ニュース 2025年3月

ご報告

退職のご挨拶

先端がん治療センター 准教授

こだま たつお
児玉 達夫

私達は共通一次試験が初めて行われた年に島根医科大学4期生として入学しました。卒業時は同期の半数以上が母校の全診療科に入局し、私は眼科を選択しました。同期の椎名先生が病院長、鬼形先生と田邊先生が本学教授として活躍されているのをみると隔世の感があります。眼科入局後は角膜移植の他、網膜復位術と未熟児網膜症の治療に従事し、治癒率100%を維持してきました。大学院での研究テーマが腫瘍病理であったことから眼腫瘍に興味を持ち、眼部腫瘍性病変の診療と並行して病理組織の免疫組織化学的研究も行ってきました。眼科同門会と眼科医会の先生方の協力を得て、日本眼腫瘍学会と日本眼窩疾患シンポジウムの学会長として、松江で2度の全国学会を主催することもできました。厚生労働省の希少がんのワーキンググループ委員として、全国の患者さんが眼腫瘍専門施設にアクセスできるシステム構築にも尽力しました。



2017年に先端がん治療センターに移籍し山陰唯一の眼腫瘍外来を開設してからは、可能な限り視機能を温存できる保存的治療を模索してきました。眼腫瘍は眼科だけでは対応できません。診断から治療に至るまで、長年全診療科の御世話になってきました。改めて御礼申し上げます。定年後も毎週1日は大学病院に通勤し、微力ながら眼腫瘍の診療と啓発に努めていく予定です。今後ともご指導の程宜しくお願い申し上げます。

